

先日、EXPO2025「大阪・関西万博」の公式ホームページを拝見しました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、サブテーマは「命を救う・命に力を与える・命を繋ぐ」でした。

大阪・関西万博がめざすものとしては「持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献」「日本の国家戦略Society 5.0の実現」があるようです。

建築業の労働者が命を意識する時は、建築現場の安全管理です。建築現場の労働災害をゼロにする事は難しく、どこでも見かける安全第一・安全計画・安全行動を充実させるのは簡単ではないようです。だからこそ、労働災害で負傷した方々を適切に治療する保健医療も大事ですね。

私は20代の頃、休日になると大工専校友会の友人たちと楽しい登山をしていました。当時は健康スポーツ程度の登山であり、安全第一ではない登山をしていた事が悔やまれます。

冬期の山岳地帯における登山であれば、アマチュア無線機器も携行するべきであったと反省していますが、それでも「いのち輝く体験」だったという気持ちは、今も変わりません。

それでは奈良県の大峯奥駈道・釈迦ヶ岳の元旦の景色をご覧ください。



〈釈迦ヶ岳の登山口駐車場〉です。私が20代で登山を始めた頃は、このような状態のリュックでした。今、客観的に見るとデタラメです。

冬期の山岳地帯は気象状況が悪化すると、とても不安になる事があります。雲と雪と風の状況によっては、下山という悔しい選択を選びます。

特に強風を受け続ける状況はとても危険で、迷う時間が長いほど危険度が高くなります。



私は登山で遭難した事はありません。本当にLUCKYだと思います。当時、有料の気象レーダーを活用しながら登山していた事も良かったと思います。「運も実力のうち」と言う言葉も大事ですが、少し危ない言葉でもあります。

現在、初めて歩く冬期の山岳地帯では地図とGPS、アマチュア無線機器は必携だと思います。例えば、この状況で進む事は危険です。

友人と相談しているうちに雪と風で、あっというまに足跡が消えていってしまいます。でも、どこか安土桃山時代の絵師・長谷川等伯が描いた「国宝・松林図屏風」みたいですね。



〈冬期の山岳地帯の夜〉です。テントから出ると、激しい強風が吹いていました。風上を眺めていると、雪女が近づいて来るような雰囲気でした…。雪女の Image は、たいてい美しい女性ですが、その理由に辿り着けたような気がします。とても寒い夜でしたが、大工専校友会に、建築学を話し合える友人がいてくれた事に感謝しています。



〈釈迦ヶ岳山頂の釈迦如来銅像と初日の出〉
日本200名山に選定されていて、現在の標高は1800mです。



〈冬期の山岳地帯〉は晴天になると、とても美しい風景を見る事ができます。美しい風景から学ぶ事はたくさんあると思います。

安全で美しい都市という理想は、多くの人人の労働と協力、話し合いによって実現する事ができると思います。途方もなく長い時間の先にある理想です。

私にとって『STAR WARS』の時代の都市は、とても魅力的ですが戦争は続くようです。平和はテレビGAMEのコントローラーぐらいです…小さなボタン電池も誤飲によるトラブルの原因になっています。

それでは、冬の日クラシカルな建築短歌三十一文字詠ませていただきます。

～ 夢洲と いにしへの塚 大鷓鴣

畿内のPOLIS いのち輝く ～